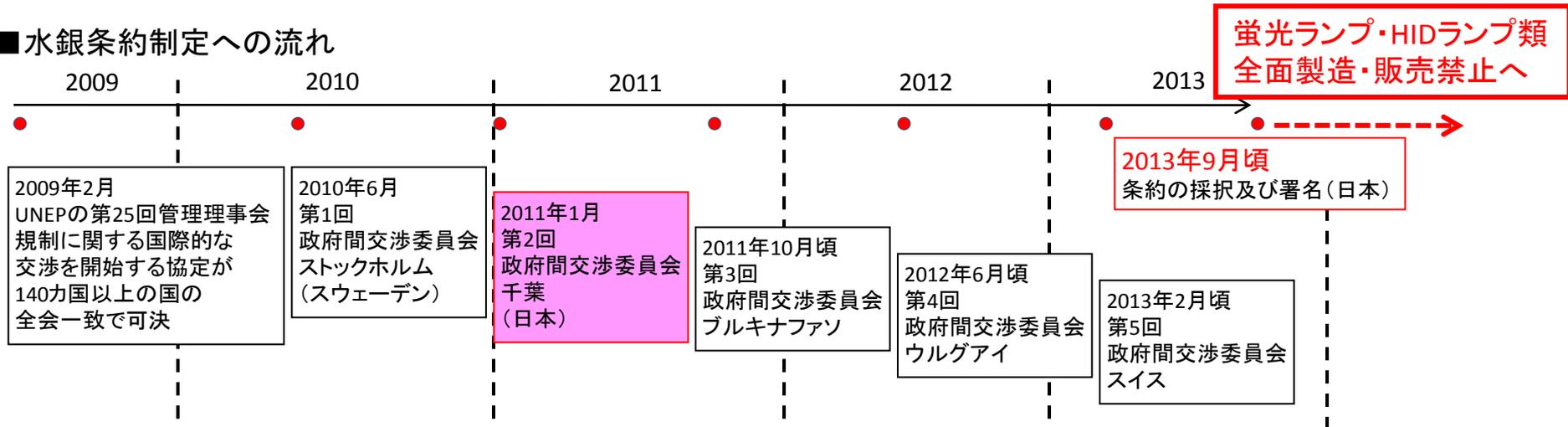
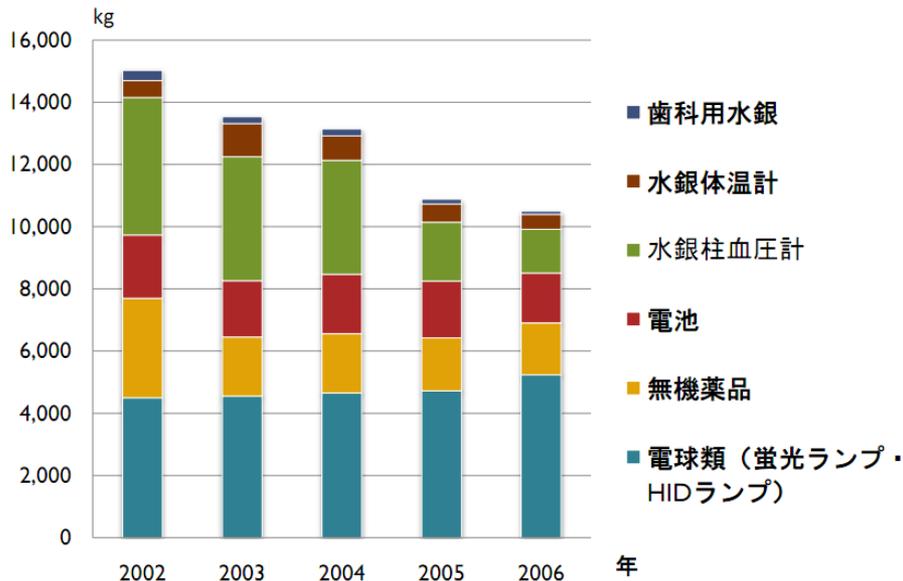


国際的な水銀によるリスク削減のための条約(水銀条約)の制定

■水銀条約制定への流れ

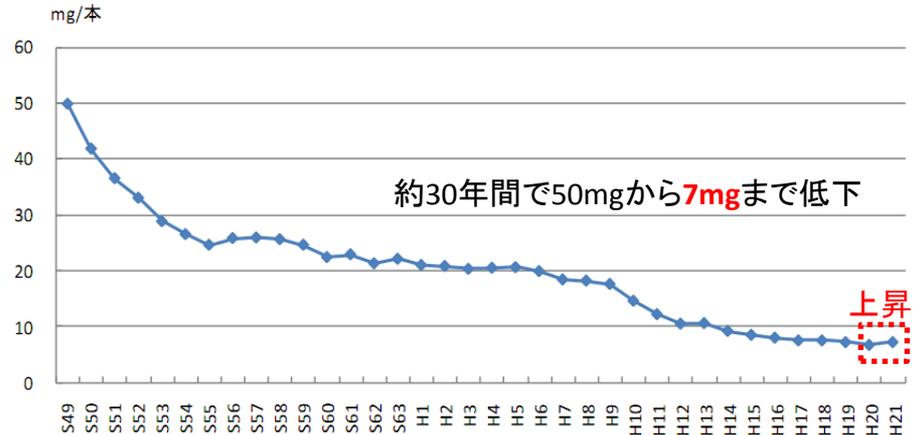


■日本において水銀を使用した主な製品



※環境省資料より作成

■蛍光灯1本あたりの水銀含有量の推移



※環境省資料より作成

EUのRoHS指令

管径28mm超の標準寿命の3波長域帯蛍光灯: **5mg以下**

現段階で **日本製の蛍光灯はEUでは通用しない**

今後既存蛍光灯は **全廃** の方向

水銀:千葉で条約交渉始まる 新興・途上国は規制に慎重

水銀による健康被害や環境悪化を地球規模で防ぐ「水銀条約」の制定に向けた国連の政府間交渉委員会が24日、千葉市で始まった。国連は13年の採択を目指している。大気中に水銀を排出する石炭火力発電所での規制や輸出入制限などが焦点となる。新興・途上国は「自発的に取り組むべきだ」と規制に慎重で、交渉は難航すると予想されている。

今回の委員会には約130カ国が出席し、28日まで開く。

水銀は、電池や蛍光灯などに利用されているほか、途上国では金採掘時に使われている。また、石炭に含まれているため、経済成長が著しい中国など新興国の火力発電からの排出が急増している。日本での排出は規制強化で減ったが、金属精錬過程などで回収された水銀を年間100トン以上輸出している。欧米は禁輸することを決めており、日本も新たな対応を迫られそうだ。

各国は水銀がもたらす健康被害を踏まえ対策の必要性を認め、昨年からの交渉が始まった。その後、国連は、水銀を使用できる製品を限定したり、大気中への排出削減や輸出入時の手続き強化などを求める条約の原案を提示した。今後、原案に基づき、規制内容の義務化の範囲や、新興・途上国への技術支援策をめぐって13年までにあと3回の委員会が開催される見通しだ。

24日の開会式で、近藤昭一副環境相は「水銀の供給・需要・貿易を制限し、可能な場合には廃絶していく」と述べた上で、13年の会合を日本に誘致し、水俣病の経験を踏まえ「水俣条約」と命名するよう提案した。熊本県水俣市の宮本勝彬(かつあき)市長は「条約が公害の原点である水俣の地で採択されることを、強く願っている」と訴えた。【足立句子】

毎日新聞 2011年1月24日 10時45分(最終更新 1月24日 12時20分)



宮本勝彬・水俣市長のあいさつに交渉参加者は熱心に耳を傾けた＝千葉市内で2011年1月24日、江口一撮影

水銀:輸出禁止で一致 国連交渉委

水銀条約採択に向け、千葉市で開かれていた国連の政府間交渉委員会は28日、水銀の輸出を原則禁止する方向で各国が大筋一致し、閉幕した。欧米は既に禁輸の方針を決めるなど世界的な流れになっている。交渉では、水銀の代替が難しい場合の例外などを求める意見もあり、13年の採択までに結論を得る。

日本など先進国では規制強化が進み、大幅に水銀使用を削減したが、アフリカや南米などは、小規模な金探掘現場の多くで水銀に金を溶かす原始的な方法が使われ、大気や河川を汚染し、労働者や家族の健康被害を引き起こしている。

交渉では、水銀の排出削減や輸出入制限などを議論。世界で最も利用される金探掘現場に、輸出された水銀が流出するのを防ぐため、原則として輸出禁止が必要との意見が多かった。しかし、途上国や新興国を中心に、水銀以外の代替技術の早期導入が難しいものは例外を認め、猶予期間が必要との意見もあり、議論を継続していく。【足立句子、江口一】

毎日新聞 2011年1月28日 20時02分(最終更新 1月28日 21時22分)

検索: 水銀

記事 写真

関連語: 輸出禁止 一致 国連交渉委